



社会福祉法人
せたがや榎の木会
機関誌第9号

2011.5 発行

「巻頭言」

理事長 鈴木昭雄

三・一一。巨大地震と巨大津波に原発災害が重なった「東日本大震災」は、我が国民に未曾有の被害をもたらしました。私の記憶の中に似通った経験を探ってみても、僅かに、六十数年前の敗戦前後の生活——激しい空襲で一面の焼け野原となった空漠たる光景と空腹に耐えながらの避難所生活、母の苦勞を見ながら生死も定かでない父の復員に望みを繋ぐだけの戦後生活——が思い当たるくらいのもです。この度の震災で亡くなられた方々に対して謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々には心からお見舞い申し上げます。特に、知的障害者とそのご家族が直面している困難やご苦勞は如何ばかりかと思ひ、榎の木会としても、東京都育成会に協力して義援金や人的支援活動の面で積極的に努力していくつもりです。

平成23年度は、当法人が事業を開始してから10年目を迎える年です。その間には紆余曲折もありましたが、多くの支援者に支えられ、事業内容と実施体制の両面において充実・強化の一途をたどってきました。今までのような

努力を今後とも一貫して継続すれば、私の言う「当法人の第Ⅱ期」——名実ともに「一人前の地域法人」にふさわしい態勢が整う——を遠からず全うすることができるとは思いません。キイワードは「法人一体となつての事業運営」で、福祉の世界で時に言われてきた「施設あつて法人なし」というような事態を完全に払拭することです。

そのための第一歩として、予てから懸案となつていた「給与規程の統一」を今年度から実現することができました。千歳台・下馬等の「先発組」とわくわく祖師谷や旧民営の「後発組」とで別々になつていた給与体系を、両者ともに同一の給与規程を適用することにより、一元化を図るものです。これにより、職員間の給与格差の是正措置が一段と加速するとともに、適材適所の職員配置による一体的な法人運営の基盤が整うものと期待しています。

それと同時に、地域法人としての当法人に課せられた「使命・ミッション」を再確認し、その的確な遂行のための手段・方法として、本部を含めた各事業所の運営方針・事業計画を策定・実行していく態勢をとることとしました。法人ミッションを「私たちは、世田谷区の知的障害児・者が、住み慣れた地域で、安心して自立生活を続けられる

よう、質の高い福祉サービスを提供し支援します」とするとともに、新たに「法人本部事業計画」を策定し、法人を挙げて取り組んでいくべき諸課題を示しました。そのもとに各事業所の「ミッションと事業計画」を位置づけ、整合性のある利用者支援に万全を期します。

加えて、第Ⅱ期の成果の上に築かれるべき「第Ⅲ期の事業構想」の検討——今まで実績を積み上げてきた「日中活動系」・「訪問系」に加えて、「居住系」サービスをも含めた包括的な地域生活支援体制の構築への試み——にもチャレンジしてみたいと考えています。例えば、長年の懸案であるグループホーム・ケアホームの開設・運営を24年度中を目途に実現する。ケアマネジメント機能を中核とし、当法人の事業実績の中で得られたさまざまな知見を加えて「地域生活支援センター」構想を練り上げ、事業化を目指す、など。さらに、当法人の任務は知的障害者を主たる対象とする「対人サービス」の提供です。その質の良否はひとえに担当する職員の「資質と支援能力」如何にかかっています。したがって、第Ⅲ期へ向けての最大の課題は「人材の育成」にあるとも言えるでしょう。

顔晴ります

千歳台福祉園施設長 村瀬精二

お世話になります。下馬福祉工房から着任しました村瀬精二です。児童入所施設で26年、下馬福祉工房で9年、世代交代を目前にして、この経験を生かし、若い職員の養成に取り組みたいと考えています。千歳台福祉園利用者の幸せに直結する実践的な視点で学び、支援の一翼を担ってほしいと思います。

私たちの実践の方向として三点、お伝えしたい。私が現場で一貫して指摘され続けたことは、“現実肯定”“現象に振り回されるな”でした。これこそが知的障害福祉、支援の大原則であると肝に銘じています。特に千歳台福祉園はサブミッションで「利用者が安心して活動できる場を提供するとともに本人主体のサービスの質の向上に努めます。」と謳っています。まさに本人主体の実践も原則に則って進めることになり、ともかくも、現象に惑わされないこと、できる・できない、分かる・分からないに着目するのではなく、それぞれの関係の中で育まれた持ち味のなかに主体があるはずですから。ふたつには、地域の福祉施設は「明るく元気」が大事なことです。支援者が楽しく関わること、支援者がハッピーな気持ちで出会うこと、その支援者の肯定的な心情が利用者に伝染していくのです。こうして地域の方をも明るく元気にしていかれたら素敵な地域の

拠点となります。

そして私たちの支援の目的は「自分のことが好き」との歩みを支えることに置きたい。「できないこと、分からないこと、迷惑をかけることがいっぱいあるけど私のことを大事にしてくれる人がいるから自分のことが好き」という思いを強くすることです。この思いを土壌にすれば豊かに生かされる。「自分のことが好き」を支えるには私たちの周りのものは「あなたのことが好き」の思いを注ぎ込むことに尽きます。人は柄は周りから注ぎ込まれて成り立つものだからです。

個人的には、この実践の過程をヒューマンウェアとして展開し、できれば福祉制度先進国へ支援論の輸出をしたいと夢を思っています。そのためにも、もう少しいい人になろうと努力してゆきます。

そんな思いで、利用者、家族のみなさんと、職員と新たな関係をとり結んでゆきたいと願っています。

脱ぎ捨ててひとふし見せよ竹の皮
(蕪村)

この出会いを待ちかねたように地中から筍が芽吹き、若竹が伸びゆく季節、顔晴ります。

就任挨拶

下馬福祉工房施設長 吉田快永

この度、世田谷区立下馬福祉工房の施設長を拝命いたしました、吉田快永よしたよしひきです。今までご縁のあった方々からは「かいえい」と呼ばれています。

せたがや榎の木会とのご縁は、9年前世田谷区立千歳台福祉園の開設に関わらせていただいたところから始まります。それ以前は、杉並にある『知的障害者の授産施設』に勤めていました。『授産(現在の就労継続支援(B型))』を振り出しに、「世田谷区立千歳台福祉園(生活介護)や「わくわく祖師谷(生活介護・就労継続支援(B型))」で働いてきた知的障害者福祉の世界ですが、この世界の幅広く奥深いことも十分に承知した上で、これからの職務に当たらなければならぬと、身の引き締まる思いでいます。

下馬福祉工房は、村瀬前施設長の下、利用者さんの心理解をし、利用者さんの「丁度」を考え支援してきた施設です。その思いをふまえながら、もともと利用者さんの自己実現のために支援をしていかなければならない施設だと思っています。急激な変化は、利用者さんにも不安定要素を与えてしまうことは重々承知しています。しかし、そのような中でも世の中は日々刻々変化しています。自分たちが「現状維持」でよいと考えるなら、世の中が進化(前進)していく中での「現状維持」は、相対的には“後退”です。世の中や利用者さんが前向きに変化していく状況に合わせ、「前に進む」そんな施設にしていきたいと考えています。支援の基本は、利用者さんと真摯に

向き合うことだと思えます。私は、大学を卒業しすぐに知的障害者福祉の世界で働き、並行して社会教育の場面でボランティア活動にも関わらせていただいているので、幅広い方々(障害のある方、無い方)との関係を持たせていただくことができたいです。その経験を職務に生かしていきたいと考えます。また、施設長は、施設を運営していかなければならない立場です。で、経営面では新たに勉強し、3年後の『指定管理』プロポーザルにも対応できるようにしなければならぬと考えています。

まずは今まで下馬福祉工房が積み上げてきた、利用者さん・職員の生活・作業・社会との関わり・人とのつながりをふまえ、職員全員が思いを共有して、利用者さんと向き合っていける施設にしたいと思っています。

新任施設長ですので、何かとご迷惑をおかけすることもありますが、皆様から温かく厳しいご指導をいただきますようお願い申し上げます。



共に歩み楽しく過せるプレリズへ

プレイ&リズム希望丘

管理者 布施麻紀子

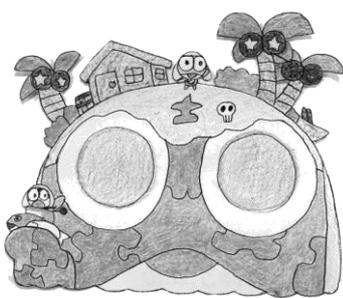
太陽がキラキラと輝く、真夏生まれの元気なプレイ&リズム希望丘は、大勢の方に支えられもうすぐ7年目を迎えます。初めてお会いした時はちょうど小学校に通い始めたばかりだった小さな子ども達が、この春は立派に中学校の制服を着て来所されました。未就園児から高校生まで。人間の成長が最も早く大切な時期に、共に歩ませて頂けるのがここプレイ&リズム希望丘、通称プレリズです。

プレリズでは子ども達が楽しく過ごせることが大前提です。私にはプレリズの子とも達と出会って、人間には楽しさの表現方法がふたつあることがわかりました。ひとつは笑ったりはしゃいだり、リラックスした笑顔での楽しさの表現。もうひとつは目を輝かせ、何かに集中して取り組む姿。気持ちの良い緊張感が漂う、これも楽しさの表現です。子ども達は難しすぎるものも、逆に簡単すぎるものも楽しめませんので、個々人の発達課題に応じた活動を提供できているか、静と動のバランスの取れた「楽しさ」を表現してもらえたか・・・職員も毎日が勉強です。せたがや檜の木会の中でプレリズは最も年少の子ども達が集まる場となっています。

今年度中には今までのグループよ

り更に小さな2歳児前後のグループを新たに設立する予定でいます。世田谷区で過ごす「はじめの一步」。現在プレリズに通って頂いている子ども達はいきいきとした笑顔を見て、それが明るく力強い「はじめの一步」となれることを願っています。

最後になりましたが、本年4月からプレイ&リズム希望丘の管理者に就任いたしました。これまでの経験を生かして、そして今まで以上に笑顔の絶えないプレリズを作っていくように思います。どうぞ宜しくお願いいたします。



23年度の抱負

上町福祉作業所所長 北川友幸

平成23年度、当作業所は新しく加わった仲間を含めて19名の利用者さんでスタートを切りました。

昨年度、受注作業において中心を占めていた作業の受注量が大幅に減少してしまいました。他業者の受注が増えたことや高単価の業者と新規に取引を開始できたことで収入面では問題ありませんでしたが、作業種目の面では大

きな痛手でした。今年度は様々な方法で新規の取引先を開拓し、特定の業者に頼らない体制を構築し、作業種目の充実を図っていききたいと考えています。また、自主生産品の「小銭入れ」は作業所開設時より製作されてきた、当作業所の代名詞的な存在です。今年度は各種媒体を通じた宣伝を強化し、作業所外部にて常時販売をして頂ける店舗を増やしていくことで、「小銭入れ」の認知度をより高め、より多くの皆様にご愛用頂けるように取り組みを行っていきたくと考えています。

過日に発生した大震災は、利用者さんにも大きな影響を与えています。また、今後の作業所活動にどのような影響が生じるか、予測はまったく立ちません。しかしながら、生産活動（作業）を事業の中心に据えている作業所として、利用者さんが「働くこと」によって得られる達成感や充実感、お支払いする工賃などを通じて、世田谷の街で暮らしていく為の一助となるべく、これまで以上に充実した支援を行えるよう努力を続けていきたくと考えています。



地震に学ぶ

喜多見福祉作業所所長 川名あき

3月11日は、数名の利用者・ご家族と一緒に、手話ダンスの発表のため池袋へ外出中で、地震後、帰宅困難になつてしまいました。主催者が用意してくださった待機場所まで夜を明かす可能性もあつたので、てんかんの薬が必要となり、辛うじて繋がる公衆電話で、東京都医療機関案内サービス（03-5272-0303）に連絡し、近くの病院を探してもらいました。それから、「ちよつとした外出でも薬を携帯しよう！」と皆で申し合わせ、常に3日分を持ち歩いています。

また、地震発生時から、深夜に運転を再開した超満員電車に乗り込むまで、お母様方の対応には、学ぶべき点多々ありました。緊急時には、短い言葉でさっぱりと指示を出すこと、その後は不安になるような言動を避け、明るい表情でいること等々、まだまだ油断できない日々の中で、いざという時にできるような心がけたいと思います。利用者の皆さんは不安な様子ではありませんが、地震前よりも団結力が増したように感じます。喜多見らしく前向きな気持ちで、避難訓練を積み重ね、緊急時の対応をご家庭と協議し、地域との連携を図りながら、利用者の方々を守っていきたく強く思うこの頃です。

「活動報告と地域交流」

用賀福祉作業所所長 山井正弘

早いもので、奥沢から用賀への移転（平成18年3月末）から5年有余の月日が経過しました。活動状況につきましては、奥沢時代から実施しております公園清掃は、玉川台広場での清掃委託として実施（月6回）しております。また、その実績を基に、利用者と共に、用賀教会での清掃作業を経験（月1回）することもできました。また、平成20年度から始めた地域情報誌のポステイング作業も、現在では、リビング誌も含めて配布（毎週）しております。また、自主生産品につきましても、昨年度から、用賀出張所のご紹介で、老人休養ホームふじみ荘での委託販売や玉川台区民センターでのバザー等にも参加させていただいております。今後も、用賀の地で活動させていただいた5年間の実績を基に、さらにフットワークやネットワークを活用して、地域に根差した民立の就労継続支援（B型）事業所作りに、利用者及び職員一同、取り組んでまいりたいと思っております。



「2011春」

わくわく祖師谷施設長 堀田和子

「23年度について」

平成22年度は法人にとって大きな意味のある年でした。4月に就任された佐藤事務局長のもと、給与等検討委員会、地域生活支援センター研究会、グループホーム研究会、広報委員会と立ち上げ、以前からの課題、また、新しい課題にも取り組んできました。まだまだ、検討途中の課題や今後の取り組みに発展していく可能性も含み継続していく方向です。現場としては、意見を委員会に上げ、見守りつつ、できるところから実践に移していくことが平成23年度の柱となります。4月には新入所の方、17名を迎え職員も増え、規模としては法人で一番大きくなります。わくわくする気持ちとどきどきする気持ちが混在し、緊張していますが、そこはわくわくらしさ・・・どんなこともみんな話して合せて乗り越えていきましょう！です。

「多機能型の特徴を生かす」

・生活介護のメニューを就労継続B型でも取り入れて、体操、美術、音楽、調理等を行う。また、B型の受注作業やパンの販売や配達等を生活介護でも取り入れる。
・合同のメニューを増やし、レクリエーション、球技、プール、外出等を行う。

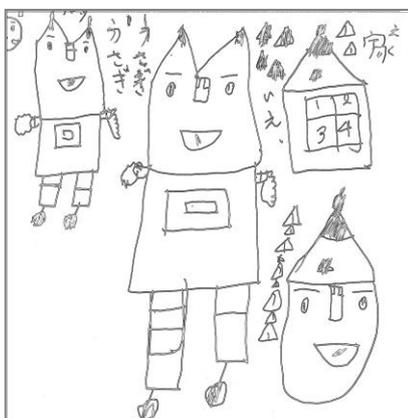
・職員体制も生活介護とB型の連携で行い、多様化を図り対応していく。
「地域づくりに向けて」

・成城大学構内でのパン販売を実現する。また、広域避難場所としての大学との連携を図る。
・地域向けパン教室、機織り教室等の開催。

・社会福祉協議会、あんしんすこやかセンター、祖師谷まちづくりセンターとの連携と合同のまつり開催。

・一人暮らしの方々が地域で安心して暮らせるように「困った時のご近所ボランティア」を開発する

さて、今までご協力頂いたパンの設備充実の募金箱は2万3141円になりました。それも含めて新たに災害募金箱として店頭に置いていきます。大地震の影響で世の中が沈みがちですが、わくわくはいつも前を向いて進みたいと思っております。いざ、出発！次なるステージへ！



新年度の事業計画・予算紹介

法人本部 事務局長 佐藤 勝

平成23年度の事業計画・予算案及び22年度補正予算案は、去る3月18日に開催された理事会・評議員会において、可決承認されました。23年度予算については、経常活動収支予算総額6億3千9百万円ですが、22年度補正予算後との比較では、わくわく祖師谷が定員増による増額となる他は、各施設・事業所とも前年度並みか減額傾向の厳しい内容となっております。

事業計画では、新規にグループホームを24年度末開設目標に整備を進めること、人材育成の観点から、研修委員会を設置（委員長は村瀬千歳台福祉園施設長）し職員の体系的研修計画をたて、利用者サービス向上に役立つ研修を実施していきます。また、地域生活支援センター事業研究会では、5月末までに一年間の研究結果をまとめ、知的障害者の相談から生活支援に結びつける実践的役割について提言します。今年度は、当法人の開設10年目を迎えるお世話になった関係者に感謝し事業・施設運営に携わった方々と共に記念行事を開催します。そのための実行委員会（委員長は吉田下馬福祉工房施設長）を立ち上げ質素ながら心をこめた記念式典・祝賀会に向けて準備を進めます。

かしの木友の会の悲願

かしの木友の会会長 村上 安長

三月十一日に起きた観測史上最大の東日本大震災で多数の尊い命が失われた事に深い哀悼の意を捧げ、同時に被災された方々に、先ずはお見舞い申し上げます。

来年は、せたがや榎の木会の十周年であり、関係者の大変なご尽力に感謝の意を表します。又、当会の後方支援として発足したかしの木友の会も、多くの会員の皆様の温かいご支援の基に六年目を迎える事が出来ました。

北沢保健福祉センターから頂戴した資料に依ると、区内で愛の手帳保持者は約三千四百人、未登録者推定は約五千人で、GHCは十箇所、緊急一時入所は六ヶ所、更には終の棲家として利用可能な施設は皆無、と誠にうら淋しい限りであります。世田谷区障害福祉計画の目標は二十三年度中にGHC十箇所とのことです。この様な現状で、せたがや榎の木会も行政と共にこれ等施設の開設運営に積極的に取り組んで戴いて居ますが、より一層の推進を切に希望する次第です。この事は、かしの木友の会発足以来、会員及び保護者の皆様の悲願であり、一日も早く実現する様せたがや榎の木会及び行政へお願い申し上げる次第であります。

～ ご寄付報告 ～

平成 22 年度 下記の方々から貴重なご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。

ご寄付者氏名・団体名	金額
世田谷区手をつなぐ親の会様 (法人)	300,000 円
東京都共同募金会様 (大原・上町・喜多見・用賀・わくわく)	1,300,000 円
かしの木友の会様 (法人)	700,000 円
アイダ インターナショナル様 (法人)	50,000 円
豪徳寺二丁目町会婦人部様 (上町)	30,000 円
尚友倶楽部様 (大原)	198,450 円
佐鳥福祉基金様 (わくわく祖師谷・上町・喜多見)	1,040,000 円
新藤 徹様 (大原)	100,000 円
東京善意銀行様 (上町)	150,000 円
世田谷区福祉施設等支援事業[軽自動車 2 台](大原・用賀)	2,048,580 円
北沢優申会様 (大原)	50,000 円
玉川台区民センター運営協議会様 (用賀)	10,000 円
合計	5,977,030 円



北沢遊技場組合様より、世田谷区を通して 2 台の軽自動車を寄贈いただきました。誠にありがとうございました。

平成 21 年度 下記の方々から貴重なご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。

ご寄付者氏名・団体名	金額
世田谷区手をつなぐ親の会様 (法人)	300,000 円
東京都共同募金会様 (大原・上町・喜多見・用賀)	900,000 円
かしの木友の会様 (法人)	700,000 円
大原会様 (大原)	200,000 円
新藤 徹様 (大原)	100,000 円
クリーンライフみのりの箱様 (大原)	100,000 円
NPO 法人手話ダンス YOU&I 様 (喜多見)	50,000 円
北沢優申会様 (大原)	50,000 円
アイダ インターナショナル様 (法人)	50,000 円
日赤奉仕団様 (プレイ&リズム)	50,000 円
豪徳寺二丁目町会婦人部様 (上町)	30,000 円
中 栄子 様 (法人)	20,000 円
堀田様 (大原)	10,000 円
メリーチョコレートカンパニー株式会社様 (プレイ&リズム)	菓子
アナザーレーン株式会社様 (プレイ&リズム)	菓子
合計	2,560,000 円



誠にありがとうございました。

第9回『秋桜祭』開催決定！

地域の方と力を合わせて作り上げている秋桜祭を9月17日(土)に開催します。作品販売や舞台発表、カレーに焼きそばなど盛りだくさんの内容ですので、ぜひ遊びに来てください。また、当日一緒にお祭りを盛り上げてくれるボランティアの方も募集しています。

興味のある方はご連絡ください。



日時 9月17日(土) 10:30~14:30
 場所 世田谷区立千歳台地区会館・千歳台福祉園
 住所 世田谷区千歳台3-31-9
 連絡先 世田谷区立千歳台福祉園
 TEL 03-3789-9801

職員異動のお知らせ

千歳台福祉園 施設長 村瀬精二

(前下馬福祉工房 施設長)

下馬福祉工房 施設長 吉田快永

(前わくわく祖師谷 主任)

わくわく祖師谷 主任 三浦孝博

(前プレイ&リズム希望丘 管理者)

プレイ&リズム希望丘 管理者

布施麻紀子

(昇任)

「退任にあたり皆様に感謝」



前・千歳台福祉園施設長 小島幸久

想いおこしますと、平成13年11月世田谷区より提供された烏山福祉園の二階で千歳台福祉園創設のための準備室を開所、シルバー人材センターのスタッフの方や手をつなぐ親の会の方、烏山福祉園の職員の方等大勢の方のご協力を得ての施設立ち上げ準備でした。

平成14年4月に施設が開所、当初は20名の利用者をお迎えして事業を開始し、以来職員の方や水泳、陶芸、音楽の講師等大勢の関係者の方々の力を得て、今日では、51名の方々が利用する生活介護施設として運営できるようになりました。

世田谷区手をつなぐ親の会

知的障害者の権利を守り、
教育と福祉の充実を目指し活動しています。

連絡先：事務所 世田谷区世田谷 3-17-7-308
 TEL 03-3706-0067 FAX 03-3706-0246
 URL：http://oyanokai-setagaya.com

せたがや榎の木会後援会「かしの木友の会」

後方支援のため、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

会費： 個人会員 一口 2,000円から
 団体会員 一口 10,000円から
 (郵便為替口座 00130-2-667003)

連絡先： 社会福祉法人せたがや榎の木会 法人本部

利用者の方との宿泊旅行や地域の方と合同で開催した秋桜祭、等・・・いろいろな方々に支えられた9年間、永いようで短く感じられた毎日でした。ここに、略儀ながら紙面をお借りして関係された方々のご健康をお祈りし、これまで頂いたご協力に感謝のお礼を申し上げます。

下馬福祉工房のみなさんから本紙へ6点の絵を提供していただきました。ありがとうございました。

編集発行 社会福祉法人せたがや榎の木会
 〒155-0033 東京都世田谷区代田1-29-5
 TEL 03-5481-1010 FAX 03-5787-4051
 E-mail setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp
 URL：http://kashinokikai.net
 編集委員 佐藤 伊藤 山口 大瀧 齋藤 堀部